

後、浜脇小学校と南小学校が合併して、平成十六年二月に落成した南小学校（旧浜脇小学校跡地）を見学、芝尾 宏校長の説明を受けた。南小学校はオープンルームとワークスペース方式を採り入れたユニークな新校舎である。

南小学校を見学後、八幡朝見神社を参拝し、神日出男宮司の説明を受け、宝物館等を見学、十三時頃、現地解散した。

市外―宇佐・高田の神社と寺院

十一月七日（日曜）、絶好の秋日和のもと、県立歴史博物館渡辺文雄副館長のご指導を仰ぎ、歴史博物館―宇佐神宮―大善寺―大楽寺―高田市昭和の町―長安寺―青宇田の画像石を巡る市外歴史探訪会が実施された。

歴史博物館では、折から開催中の特別展「南無阿弥陀仏―浄土への道―」を見学、東西本願寺はじめ県内外から出展された阿弥陀像、聖人絵、肖像、筆墨など88件の宝物を介して、深奥な阿弥陀信仰の世界に接する一時を過ごした。

次いで宇佐八幡宮では、宝物館で弥勒寺の遺品などを観覧の後、本殿、呉橋、弥勒寺跡などを散策、終わって寄藻川堤防沿いの道を曹洞宗大善寺へと移動、国重要文化財「木造葉

師如来座像」（315号）の威容に目を見張り、終わって田圃道を徒歩で大楽寺へとたどった。ここでは秘仏「木造弥勒菩薩座像」・脇侍の日光・月光両菩薩、四天王像を拝観、ユーモア溢れる住職の特別の計らいで、身を隔壁ガラスの内側に置き、清楚な諸仏を間近に拝顔する幸運にも恵まれた。境内に停む等身大の地藏・観音などの多くの諸仏もまた気品があり、会員の拝観する姿も散見された。

昼食は、高田市中央公園で取り、島理事のご配慮で近藤正治氏が昭和の町を案内、手土産をどっさり、バスで一路吉弘氏ゆかりの屋山（城）山麓の天台宗長安寺へ。

カヤの一木造りで、若さ弾む少年を連想させる太郎天（162号）を中心に、脇侍の制陀迦童子、衿襦羅童子が目前に並ぶ。参加者全員が始めて一堂に会し、すっきりとした眼差しで、笑顔を絶やさず語る渡辺文雄先生の解説に耳を傾ける。

最後に青宇田の画像石を見学。板状石に地獄極楽のありようを描いた線刻の描写は、絵巻物の地獄草紙・餓鬼草紙の筆致を連想させる。新たな発見に一同感嘆の声しきりであった。渡辺先生に手を振り、一路別府花時計前広場へ。晴天、心地よい疲労感、満ち足りた探訪の一日であった。（研修部）